

自然と触れ合い、  
五感を通じて体験し、  
興味関心をもって、  
今を夢中で楽しみながら探求する。

もともと子ども達もっている  
センスオブワンダーに  
寄り添う日々を

2019年度  
さざなみの森  
自然保育報告



PM 散歩では、11 月も末というのに、水路遊び。

今まで、水量の関係か、草の関係か、行くことのなかったトンネルをくぐって、大きな下り水路へ。

年長は用心深く進むが、年少は、一度誰かがつると滑ったら、ウォータースライダーが楽しくてしょうがなくて、とまらない。

「きゃっきゃっ」と盛り上がり、行って何度も滑る。

年少のひかりちゃんも、  
すすむくんも大はしゃぎ。



さざなみ田んぼまでいき、カカシで、「へのへのもへじだー！」と大盛り上がり。

もう寒いのに裸足になって水路に入る。が、やはり暑い夏の時より早くあがる。

捕まえたカエルに名前をつけよう、と

「ナオくんがいい」「かえるちゃん」「べぼちゃん、」など声上がる。

このカエルちゃんは、男の子？女の子？から議論が始まる。

緑が薄いから男だ、いや女だ、といった具合に。

すると、はるやくんが小さな声で、カエルに顔を近づけて、

「男の子ですか～？女の子ですか～」と話しかけている。

「男なんだって！」周りも、それをすんなり受け入れて、女の子の名前を考える。

大人になってくると感じにくかったり、褪せて見えたりするファンタジーの世界が、

子ども達にはちゃんと見えていて、感じていて、それ自体が現実なのだ。

区別などない(^.^)。



昼食後、散歩に行きたいといってくる子ども達。  
鐘が聞こえる近くまで、ということで、すぐ下の畑まで。

水路ジャンプにそういちろうくんが挑戦しようとし始め、みんなも見守る。  
自分たちも一度はやってみようと水路際まで行くが、  
やはり距離がある、と無謀には子ども達も挑戦しない。

橋にたち、腕をのばして、おめぐが距離をはかる。約 2m。  
「やってみようかな」とおめぐが言うと、「助けてあげるからやってやって」と言う。  
大人でも少し怖い。  
2度ためらって、3度めでジャンプ。  
なんとか向こう岸に飛びついたら、れお君がぱっと手を差し出し、引っ張ってくれた。

ちょっと尊敬の眼差し、  
ぶらず、自分もやってみたい、の気持ちの上昇、を子ども達から感じた。

ちなみに、そういちろうくんは、最後には3度もジャンプしていた。



散歩に行くときから、焚き火をしたいと話していた子ども達。

まずは木や葉っぱを集めないで焚き火にならないよ、と伝える。

湿った葉っぱも掻いて集めていたので、まだわかってないなあ、と思いつつ、マッチを渡す。

面白かったのは、ドラム缶に向けて葉っぱの山道をつくって、  
点火線をつくっていた、きい君のアイデア。

周りも面白がって、みんなで火をつけようとしていた。



今日の散歩は、年中年少が多い。

久々にあべまき広場へ。まだ蚊がいたので、火を炊くことにした。地面は湿っている。

最初の火種をつけるシュロだけおめぐがとってきて、置く。みんながせっせと木の枝葉を集めてくる。

みんなが集めてくるのは、湿っけてるのだけど、それでもちゃんと火が起こった。

火は自然に人を興奮させるので、そこからは、やんやとひたすら木を集めては、火に入れる、の繰り返し。

火→熱い→怖いのが前につつから、火に木をいれたいけど、遠くからなげ、火の輪の外側に行く。

「それじゃ、火が広がって火事になるから、もっと近づいて、火の真ん中に入れなきゃだよ。」

と、さるさんやおめぐが言う。すると、徐々にびびりつつも近づいて入れるように。

このくらい近づいても大丈夫、炎の向きは(風の向きは?)、木の燃え方、葉の燃え方、燃えやすさ、焚き火1つとっても、いろんな経験がつまっている。

最後、火を水で消す時も、そういうちろう君が、手で水をかけながら、ふーっと息を火に吹きかけている。

本人は、水と息(空気)で火を消そうと思ってやっている。そうだよな、蠟燭は、息をふきかけたら消えるもんね。

でも、焚き火じゃ逆に火が元気になる。

「なんで？」

この説明は、意外にしっかり考えないと答えられない。

でも、経験を通じて、子ども達はおこる現象を五感で感じている。

だから、たくさんの経験を五感で感じる経験を一緒に味わっていきたい。



天気の良い今日は、散歩日和。1日散歩づくし。

開放感に満ち溢れた子ども達の様子に、春休みならではの、のんびり過ごせる感も感じました。

午前中の散歩は、

れいちゃんが命令口調で仕切る中でも、みんな大はしゃぎ。

水路に魚を見つけて、いろいろ捕まえようとしていたが、奇声を誰かがあげたのをきっかけに、ジャイアン之歌で魚をビックリさせよう大作戦で、皆叫んでいました(笑)。

午後の散歩では、

風の棟裏を歩いている時に、ハナミズキにとまっているジョウビタキを発見。

みんな静かにそーっと近づき、割と近くで見ることができた。

れいちゃん達が、

「ジョウビタキって、100階だての絵本にでてくるよ。ツツピーツツピー、ってなくんよ！」と教えてくれて、絵本の世界と本物の世界が繋がり、嬉しく感じた。



今日の散歩トピックは、ガマの穂綿。

ガマの穂、以前「ソーセージだ〜！」と言って遊んだことを子ども達が覚えていて、「とってー」という。

「今日、長靴じゃないんだよなあ。」と答えると、れいちゃんが、「じゃあ、やってみる！」と足元を確認しつつ入っていった。それをみて、さるさんもはいて、いくつかガマの穂を摘んでくれた。

前回とったときは、こんな風にならなかったのに、今回は綿毛の匂だったのか、ハサミを入れたところから、もこもこ綿毛が盛り上がり出てきて、「やりたいやりたい！」の嵐。そして、夢のような綿毛の世界。美しかった〜！！

綿毛を拾ってはまた放り投げたり、穂をフウフウふいたり、手でこそいだり。服も靴も帽子も綿毛だらけになりながら、楽しんだ。

「秋なのに、もう雪遊びができたねえ。」とさるさん。ステキな表現(^ ^)。





今日は大根デイ。

調理は味見が楽しい。

大根調理の時に、生の大根と、炒め中の大根を味見して食べ比べる。

生でも美味しい、という子もいれば、苦い、という子も。

炒めた方を食べて、「こっちの方が苦くなる！」と発見している。

このタイミングで「なんでなんだろうねえ？」を大人が発信しておくど、

問いがなんとなく心の奥底に残って、小学校以降の探究学習に繋がる気がする。

ゆうなちゃんの提案により始まった大根の塩もみ作り。

ゆうなちゃんが大根を揉んでいる時、誰かが「はんじょうせい、はんじょうせい」と掛け声をかけている。

先日行ったイノコというハレ(行事)の日の出来事がケ(日常)の日に連続性を持って影響をもたらしている。

「神様がいるんよ」の言葉もあの行事以来、子どもからよくきく。

すごく子ども達の心に定着したんだなあ、と感じる。

今日は調理過程で、包丁や皮むき器により怪我する人続出、だった。

また、火から鍋を下ろしたすぐ後に、カセットコンロのごとく部分に触ってみて火傷する子もいた。

(まさかと思ったが、熱いか確かめたかったと思われる)。

そういった子達は、あやみさんやゆきさんに任せてフォローしてもらい、助かった。

みんな、「経験してみなきゃわかんなかったよね。」というスタンスで関わってくださる。

考え方の方向性が一緒に向いている。とても心強い！



ゆうやけ畑で育っていたレタス。

レタスは少し苦いので、子どもが食べる仕掛けとして、おやつやさざなみサンドとコラボ。

収穫はもちろん、意外だったのは、水洗いや水切りも、「自分がやる！」と寒い中、色々な子がやりたがったこと。水切り器が回転することにも興味津々。

もうひとつ意外だったのは、生の葉っぱのままでも、子ども達がつまみ食いでたくさん食べたこと。きー君がとってきていたカラシナもつまみ食いで、からーい！と言ってまたつまむ、といった様子。おやつでは、レタスを入れる子がたくさんいて、お代わりでは、中の具(ツナジャガコーンマヨ)をレタスで巻いて食べた。たくさんあったレタスが完売。

収穫、つくる過程に関わったものを食べる時、子ども達は、「私が採ったんよ！」と言ったり、洗ったんよ、と言ったりして、より身近なものとして対象を認識して、それがまた食への意欲を誘ったりするようだ。



畑仕事をおえて16時半過ぎに、  
子ども達が「さんぽ～」とやってくる。  
あまりに時間がないし、雨もすぐ降りそうだったので、  
たまたま手元にあった火起こし道具で「火起こしする？」  
と投げかけたら、やりたい！と乗り気に。  
みんな、テレビでみたことはあるよう。

少し見本を見せて、「こすった部分を触ってみて」というと  
みんなが次々に触り、「わー、あつい～！！」と。

「これで生まれた火の赤ちゃんを包むベッドがいるんだよ」  
と麻紐を割いてフワフワにしていたら、すごく上手にフワフワにしてくれる女の子がいて、  
ほとんどやってくれた。

そのフワフワが気持ちいいようで、いろんな子が頬にあてたり、  
手をつぶしてみたり。

途中、保護者や卒園生のいっくんなども参戦しつつ、1時間くらい。

なんか、脈絡なしに出してしまった火起こし道具だけど(反省)、  
後付け理由で、今後、焼き芋や野外クッキング、で起こす焚き火につながったらいいかな。